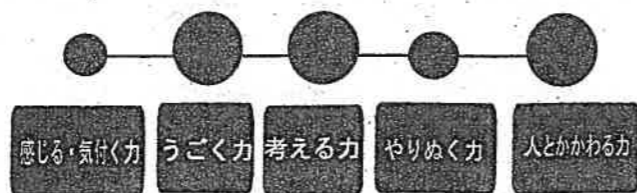


事例

3歳クラス
(6月)

電車ごっこ



【活動の様子】

園庭では、3歳児が教師や友だちと一緒に電車ごっこをして遊んでいる。5月は、電車に乗ったり降りたりすることを楽しんでいて、今は砂場やすべり台などの遊具を巡るだけでなく、たいこ橋のトンネルをくぐったり、木のまわりをぐるぐるまわったりするなどして道中を楽しんでいる。

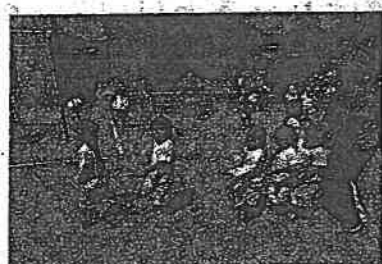
一方、砂場やお家では、ごはん屋さんやケーキ屋さんをしている。電車がお家の近くを通ろうとした時、教師が「降りませう」と言って電車から降りる。「ケーキを1つ下さい」「はい、どうぞ」とケーキをおいしそうに食べる。「じゃあ、また電車に乗って来るね!」と言うと、嬉しそうに次のケーキを作り始める。

そのやりとりを砂場から見ていた子供が「ごはんができましたよー」と教師を呼ぶ。「運転手さん、砂場に行ってください」と電車に乗って砂場へ向かう。

途中、他の子供が「赤です。赤です」と道をふさぐ。(以前電車ごっこをしている時に、年長児が信号機や踏切になっていたのを思い出す)「はい、青でーす」と言うと、電車が進んでいく。

その後もごちそうを作って待っていたり、「お弁当です」と電車まで運んでくれたりして、電車ごっこをしている教師や友だちと関わって遊んでいる。

遊びの時間が終わると、電車には一度も乗らなかったが、ずっと泥団子を作りながら、電車と並走していたA児が、「電車ごっこ楽しかったな～。またやろう!」と嬉しそうに言った。



【遊びの中で育まれている力】

- ・教師や友だちと一緒に遊びを楽しんでいる。
【人とかわる力】
- ・戸外でのびのびと体を動かして遊んでいる。
【うごく力】
- ・工夫して遊びを面白くしている。
【考える力】

電車ごっこの楽しみ方が変化してきている。

- ・自分の好きな場所で遊びを楽しんでいる。
【うごく力】

友だちの遊びに興味を持つきっかけになってほしい。

- ・友だちの遊びを見て、同じようにやってみたいと感じる。
【人とかわる力】

- ・年長児がやっていたことをまねてやってみようとする。
【考える力】

異年齢児との関わりを通して、遊びが広がる。

自分の好きな遊びをしながら、様々な形で、教師や友だちと関わって遊ぼうとする姿が見られる。

遊び方は違っても、同じ場にいることを喜んでいる。

この遊びの中での学びを支えたもの

【子供がのびのびと動きまわることができる環境】

園庭には、たくさんの遊具や遊び場や木などがある。また、狭いところや隠れることが大好きな子供の心をくすぐるような場所もあり、子供が自分の好きな遊び場を選んでのびのびと遊べる環境がある。

【子供と子供をつなぐ教師の援助】

それぞれ違う遊びをしている子供たちと楽しさを共感しながらも、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わえるように言葉がけをするなどしてきっかけを作ることで遊びがつながっている。

【異年齢児とのかかわり】

異年齢児と一緒に遊ぶことでいろいろな遊び方を知り、「おもしろい」「自分もやってみよう」と心を動かし実践している。

事例を作成してみよう...

自分が行きたいと思うところへ自由自在に行くことができる「電車ごっこ」は、子供たちにとって魅力的である。この時期の3歳児は、園に慣れ教師に親しみをもち、安心して自分の好きな遊びを楽しめるようになってくる。行動範囲も広がり園庭の端から端まで動きまわって遊ぶことができる電車ごっこは、今の子供たちにはぴったりの遊びとも言えるだろう。

この日も、いつものように電車ごっこをしたり砂場やお家など、自分の好きな場所で好きな遊びを楽しんでいた。その中で、電車に乗って色々な遊び場を巡ることを喜んでいる子供たちの姿から、この遊びを発展させることで友だちがしている遊びにも興味をもち、一緒に関わりながら遊びが楽しめるきっかけになってほしいというねらいが、この事例に込められている。

この事例を作成することで、教師の言葉がけ1つで子供の想像力が大きく広がり、遊びが何倍にも面白くなるものなのだということが分かった。途中、信号機になったり、お弁当を作って届けたり、泥団子を作りながらずっと電車と並走していたA児の言葉からも分かるように、それぞれの子供が自分なりの方法で、教師や友だちと関わって遊ぼうとしていることが読み取ることができた。